

# IB ディプロマが人生にもたらす変化

2016年2月27日投稿、トピック： **Diploma Programme (DP)** (ディプロマプログラム) , **Inspiring alumni** (卒業生紹介)

IB ディプロマの卒業生に、IB 卒業後の生活を振り返り、好きなトピックについて書いてもらいました。クリスティン・ウェイツさんは、今年の卒業生寄稿記事を担当するメンバーの一人です。

著：クリスティン・ウェイツ



クリスティン・ウェイツさんは、[ガーランド・ハイスクール](#)で IB プログラムを修了後、ベイラー大学を卒業しました。

大学を卒業し、社会人になろうとしている今、これからはばらくは学生に戻ることはないのだと思うと不思議な気持ちになります。教育は、私という人間の一部であり、想像すらしなかったさまざまな方法で私の人生を定義してきました。その中でも IB ディプロマは、大きな比重を占めています。学校教育に対する私の考え方に影響しただけでなく、生き方にも変化をもたらしました。学生でなくなった今、あの頃のように物事を考えることが難しくなっていますが、私のこの振り返りが、IB の卒業生であれ、試験勉強中の生徒であれ、はたまた IB が自分に向いているかどうかを考えている人であれ、読んでいる方に共感してもらえれば嬉しいです。

## IB は世界に向けた視野を与えてくれる

私は、大都市郊外の小さな町で育ちました。ごく平凡な子供時代を送り、そのまま行けば、ごく平凡な大人になったことでしょう。でも、高校を卒業した時には、他の文化に対する理解だけでなく、それを尊ぶ気持ちを育むことができていました。このことは、私の人生経験を形づくるうえで、特に、寛容、宗教、さらには友情といったものに対する自分の見方を模索するうえで、さまざまな影響をもたらしました。

この世界的な視野により、旅への欲求が芽生えました。単に観光客としての旅ではありません。他の文化について学び、その文化をできる限り深く体験したいという欲求を与えてくれました。これは、私という人間の最も中心的な部分を構成する要素であり、世界に対する開かれた姿勢に触れることを通して形成されました。

## IB は好奇心を刺激する

IB の授業で培った学びへの欲求は、生涯消えるものではありません。これがおそらく、私  
が得た最も貴重な財産だと思えます。IB の授業では、質問すること、疑うこと、不思議に  
思うことが奨励されました。単に何かを教わるのではなく、学びの方法を教わりました。  
そしてそれは、学生である間も、卒業してからも、私の心に留まり続けました。もう学生  
ではありませんが、だからといって学ぶことをやめたり、疑問をもつことをやめるわけ  
ではありません（私を知っている人ならご存じのとおり、私は本当によく質問します）。

## IB が教えてくれるのは自分に挑戦すること

IB の学習を始める前は、「知の理論」(TOK : theory of knowledge) の授業で意見を発表し  
ている自分の姿を想像することすらできませんでした。人前で発表することが苦手で、そ  
れはずっと変わらないと思っていました。ところが、すばらしい先生方やメンターの方々  
の励ましで、できないと思っていたことに挑戦することができたのです。そのおかげで、  
生徒としてだけでなく、人間としても成長することができました。

---

クリスティン・ウェイツ：ベイラー大学で学士号（文学）取得。専攻はプロフェッショナルライティング。2012年、米国のガーランド・ハイスクールで、ディプロマプログラム（DP : Diploma Programme）を修了。現在は、学位を活かして出版業界での活躍を目指しており、自分の文章を通じて、他の IB 卒業生に好きなことを追求することのすばらしさを伝えたいと思っている。